

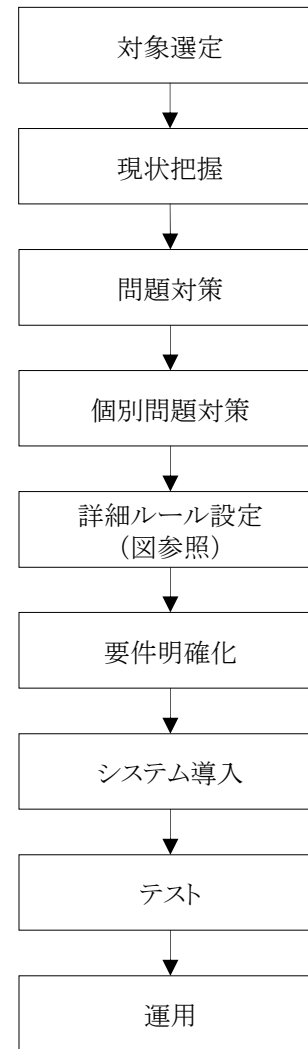
4・7 SCPの導入

SCPの導入の際には、システム導入の前に個別の対応ルールを明確化しておく必要があります。それらを明確化し、システム側での対応も確認して導入につなげる必要があります。

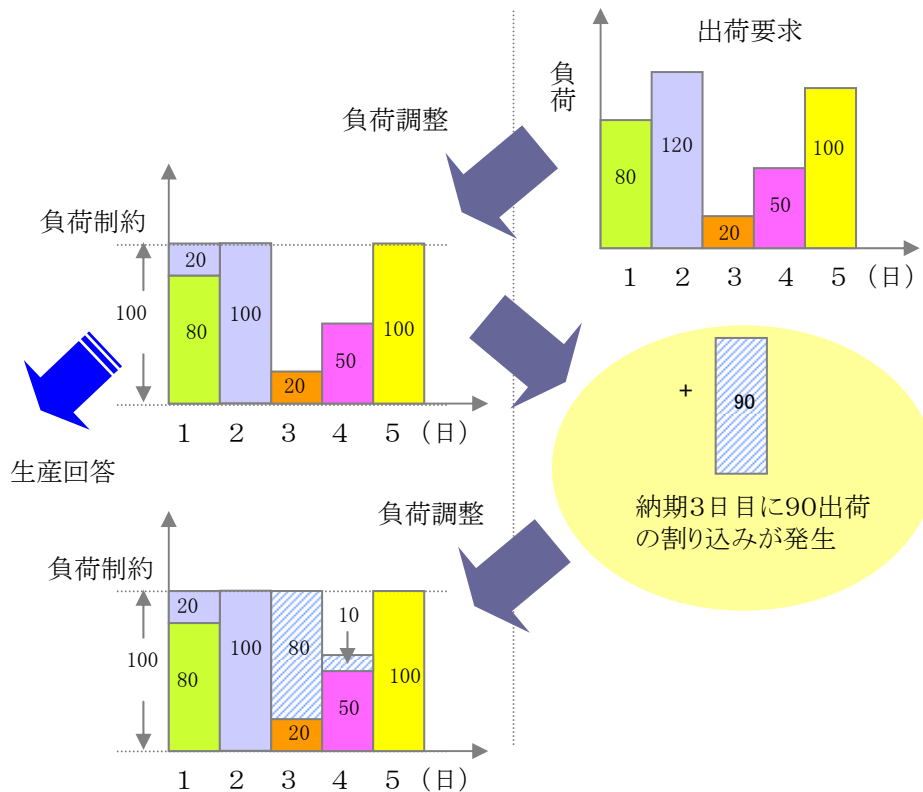
図は、負荷調整ステップの説明ですが、負荷平準化後に、追加受注を強引に割り込ませると、せっかく調整された負荷の平準化が崩れます。さらに平準化を行なうと、今度は一度確定した納期が変更され、大幅な日程調整が必要になります。このように迅速な日程調整のシミュレーションを迅速に行い、最適計画（影響が最小限で、皆が満足できる計画）を組むには、高度な能力を持ったSCPが必要で、Pが必要です。

一方で各企業では、自社の事業に基づいて、受注の特性、割込みの頻度等から、どのような対応の仕方が最も良いかの考え方の基本ルールを検討した後、システムの選定、導入を検討するのが良いでしょう。さもないとシステム側に振り回されたり、思いの実現が出来ないこととなります。自分たちで何をやりたいかを顕在化した後、システムの導入に入ることが満足度の向上につながります。

展開ステップ



例、割り込み需要の回答済み納期に対する影響等を検討して業務ルールを設定する。



※ 上記についてはSC活動全体の方針に従い、負荷調整のパターン、需要優先順位、SCP機能制約を配慮しながら業務ルールを決定する。